

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500172		
法人名	有限会社 ドリーム・アンド・ライフ		
事業所名	グループホームもやい志和		
所在地	東広島市志和町冠584番地 (電話) 082-433-3899		
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492500172-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492500172-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年3月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

隣接しているいきいきデイとレクリエーション、行事等を一緒に行なうことで、少人数で過ごすことを基本にしながらも、時には大勢で過ごす時間も設け、メリハリを持った生活を送って頂く様支援している。環境については木をたくさん使った建物で、暖かく、ゆったりした雰囲気を大事にしており、一昨年の夏からは施設で柴犬を飼い、皆様の癒しとなっている。また昨年は以前からの夢であった一泊二日の島根旅行やカープ観戦なども実現でき、行事が充実した年になった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この事業所は田園地帯にあり、居室からは山並みも望める静かな環境にある。築3年の真新しい建物は最新の建築工学を取り入れ、共用空間はあえて直線の単調さを避け、凹凸のある死角を持たせ「くつろげる生活空間」を実現している。この事業所での特筆すべき点の一つとしてスタッフ・管理者・最高責任者のお互いが強い信頼関係にあり、それぞれの立場で伸びのびと力を発揮している点があげられる。地域住民も参加して盛大に開催される”もやい祭り”や事業所内での文化祭、全員参加の外泊旅行等、多彩な行事は家族や地域住民からも支持されている。また支援の根底に『自然のままでもいい、その人らしく過ごして欲しい』があり、利用者への思いやりに溢れた支援が心掛けられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフコーナーに貼り、職員に周知できるようにしている。	事業所開設時にスタッフで話し合い「このような事業所でありたい」の思いを込めて、事業所理念が作成されている。それは、スタッフコーナーの常にみえる場所に掲示されているが、その確認は各自の自主性に任せており「唱和」等、皆で確認する機会は設けられていない。	理念を皆で確認する機会が設けられていない為、全員が認識・理解しているかは不透明な状況である。月一回実施する職員ミーティング等を利用し皆で定期的に確認し、共有を図り「理念に基づいた対応が出来るか、不足する部分はないか？」の振り返りが必要と思われる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行事を通じて地域や家族との交流を図り、また、日常の買い物、や散歩なども近くのスーパーに出かけるなど、地域の一員であるという認識を持っていただけるようにしている。	「地域ふれあいコンサート」等、地域の行事には積極的に参加している。地域の文化祭では「もやいコーナー」が設けられ利用者の作成したちぎり絵等の作品を出品・展示している。また年1回、事業所で「もやい祭り」を開催し多くの近隣住民も参加し、地域との交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	陶芸などの作品を地域の文化祭に展示し、認知症に対する理解や支援の方法をパネル等を利用し知っていただいた。また今年は施設の文化祭として、作品や日々の様子等を紹介した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、運営推進会議を開き、利用者の家族や地域の声を聴き、行事や運営に反映できるように取り組んでいる。	家族代表を始め、地域代表者・民生委員・地域包括支援センター・同業他社代表等の方々を、運営推進会議委員として組織し、会議を定期的開催している。委員からは、多くの助言や情報もたらされ運営に活かされている。餅つき大会も地域委員の助言により用具一式が調達され実施できた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で市の担当者と情報交換をし連携することで疑問や問題点を提起し、協力をして頂ける関係を築いている。	3年前の事業所開設時には質問や助言を求める等、密な連絡を取っていたが、今では落ち着いてその頻度は少なくなった。ただ運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席があり、情報交換やアドバイスがあり協力関係も築かれており運営に大いに役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的には身体拘束をしない方針だが、2人の利用者に対し、車椅子からの転落がある為、やむを得ない事情として捉え、ご家族には説明し、了解を得ている。しかし、職員の見守りがしっかりできる時は、ソファや椅子に座り替え、拘束時間の軽減に努めている。</p>	<p>突然立ち上がる等、車いすからの転落を防ぐため現在2名の利用者に対し腰ベルトをしている。事故防止・生命保護の為ご家族の了解を得てやむを得ない処置としている。十分な見守りが出来る時は椅子やソファに座り替え、拘束時間軽減に努める等、適切な対応を心がけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年間職員研修の中で、虐待防止についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年間職員研修の中で、権利擁護についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前に、重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や不安に思っていることを説明の中で明らかにし、理解や納得をして頂けるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望を気軽に聞き出せるようにしており、出来る限りそれに対応できるように努力している。</p>	<p>意見箱もあるが、家族・本人の意見・要望は家族の面会時に寄せられることが多く、それらは連絡ノートに記入され職員間で共有し対応している。なお家族と管理者との間に、メールによるホットラインもあり、面会が難しい時、口頭では伝えにくい時の有効な手段として活用されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回の全体会議などでお互いの意見を提案していき、反映できるように検討・実施等を行っている。</p>	<p>日常の運営の中で職員は自分の意見・要望を発言し易い環境が出来ている。また毎月1回の全体会議では運営方針や課題が討議され、職員意見の公式の発言の場ともなっている。午後から午前への入浴時間帯の変更・事業所内文化祭の実施等も、スタッフ意見により実施された。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回、目標管理シートを基に、代表者は各職員と面談し、要望や不安などを聞きだし、助言するとともに、各管理者にフィードバックし、職場環境整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間職員研修や外部研修により知識、技術の向上を図り、また、無資格者には働きながら資格が取れるよう、勤務状況も配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修やグループホーム協会の会議等に参加し、お互いの事業所の情報交換やネットワーク構築に努めている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>アセスメントシートで本人、家族の要望、不安を聞きだし、安心して生活できるように支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当者会議で家族から本人の利用に関して、不安や要望を伺い、できるだけそれらの不安を取り除き、よりよい関係を築くように努力している。また、普段から積極的に要望や疑問などがないかどうか伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントや担当者会議でニーズを見極め、ケアプランに反映して、よりよいサービスを展開できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人のできることや、やりたいことを見定め、食事の準備や後片付けなどを行うことにより、一緒に生活しているという意識を持っていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	可能な限り面会にきていただき、一緒の時間を過ごしたり、行事などでは家族に参加頂き、共に本人を支えているという意識を持っていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	地域の方が多いので、買い物や散歩に出掛けることで、顔なじみや知り合いの人に会える機会を設けている。また外出が困難な家族様には、家に入居者をお連れし、ゆっくと過ごして頂いている。	利用者にとって家族との良好な関係継続が一番であり、家族が面会に来やすい雰囲気作りを大切にされている。近隣のスーパーでの買い物も、顔馴染みに出会える機会として日常生活に組み込まれている。「生まれ故郷に帰りたい」の思いを叶え、瀬戸の島に日帰り旅行したこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	職員が利用者同士の共通した話題や趣味などを利用し、お互いの関係作りに励み、自然とお互いが意識し、支えあっていけるように努めている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	入院や老人保健施設入所などで一時的に契約を終了されても、関係を維持することで再び入居に繋がる事もあるので、相談や経過フォローに等に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々の関わりの中で本人の思いや希望をくみ取るように関わる時間を多く持っている。収集した情報は申し送りノートにてタイムリーに伝わるようにしている。20で記載したように、個々の希望を叶えるためにしっかり関わりを持ち、思いをくみ取るようにしている。	おやつタイム・食事の時間、職員も共に同じ時間を過ごしながら、利用者に寄り添う時間を多く持つよう努めている。「旅行に行きたい、宝くじを買いたい、寿司が食べたい」会話の中からこんな思いを汲み取り、個々の情報として職員間で共有し、後の実現に向けた対応・努力が払われている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	アセスメントやケアプラン、家族の面会時などを利用し情報の把握に努めている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	入居当初はアセスメントシートや、家族より聞き、その後は日々の介護記録や職員からの申し送り等により、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画はアセスメント、ケアプランを基に作成し、本人、家族に納得を頂いて署名、印鑑を頂いている。また対象者を決め関わり方を再検討し、改善案等出し合い、皆で実施している。</p>	<p>最長スパンで1年に一度は介護計画の見直しを行っている。現在はケアマネージャーが介護計画の原案を作成し、それを管理者が内容確認し、必要な調整を行っている。作成された介護計画書は面会時や電話で家族に示され、承認を得られたものを最終決定分として採用している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテに日々の生活を記録し、特記事項等あれば記録し、その中から介護計画、ケアプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族や本人のニーズをしっかりと伺い、それに合わせフォーマルなニーズのみならず、インフォーマルなサービスも組み合わせ、より柔軟なより良いサービスを提供できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーや公民館、神社等に出掛け地域との交流の中でご本人が暮らしを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医はご本人やご家族の意向を伺いながら、適切な診察を行ない、定期受診にて利用者の健康管理を行っている。</p>	<p>かかりつけ医については、事前に本人・家族と話し合い特別な申し出がなければ提携医に登録し、月1回の定期検診を受けている。専門医・歯医者等の提携医以外の受診も職員が対応している。定期健診以外の受診をする場合は、家族に事前・事後の連絡をする等、適切な医療支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員一人ひとりが情報を共有し、定期受診の際には情報や気づきを伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の地域連携室と密に連絡を取ったり、お見舞いに行き状態把握に努め、退院時に希薄な関係にならない様に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用者の状況によって、家族・職員・医療関係との連携を図り、今後の方針を決めている。また今年度、かかりつけ医の三木先生に「看取りの研修」を行って頂き、看取りについての支援の在り方について学んだ。	入居時に重度化した場合の事業所としての方針・対応については説明がなされている。近年、終末期における具体的な対応を家族と協議する間もなく事業所で突然、急変により亡くなられた方があった。これを機に事業所では「看取りの研修」を行い、近い将来に備えつつある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対応として職員研修を行い、実践力を身に付ける様に努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回、消防署と連携し、夜間を想定した訓練等も取り入れ行っている。隣に住む消防団とも契約を交わし、災害時は通報システムで自動に連絡がいき、協力体制を築いている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練が行われているが、近年 新築された事業所であるにも関わらず「平屋建て」であることが最大の災害対策である。万が一の火災発生時には、消防署のみならず近隣の消防団にも自動通報されるよう契約が交わされ、協力体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「一人ひとりの人格・尊厳を大切にすると理念にもあるように、配慮に欠けるような言葉遣いや対応はしないよう教育・指導している。	事業所理念に「人格・尊厳を大切にする」を掲げており、事業所の確固たる方針として徹底に努めている。利用者に対する敬意を欠いた表現、慣れなれしい言葉づかいや子供扱いの態度には、その都度、指摘・注意を行い、会議でもそれらの徹底を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話や相談等の関わりの中で、本人の思いをくみ取り、ケアプランや日頃の暮らしの中で実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てが最優先と言うのは難しいが、一人ひとりの気持ちを大切に、出来るだけ一日一日が充実した日になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容院が来られ散髪をお願いしている。また起床時には洗顔や整容に心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けも行っている。また行事の際の食事は何がいいかリクエストに応え、一緒に作り、一緒に食べるなど楽しい時間となるように心がけている。	日々の食事は、業者より調理済みが届けられるが、ご飯とみそ汁は事業所で対応している。行事食を中心に「何か食べたいものある？」と問いかけて、月2～3回は職員が利用者の希望を取り入れた事業所独自の献立を作り、食事が楽しいものとなるよう配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量のチェックをし、摂取量の確認を行っている。また、個人の嗜好に合わせてコーヒーや紅茶などを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の清潔維持と誤嚥性肺炎の予防の為、毎食後必ず口腔ケアを行ない、また自歯がある方は協力医院の歯科に定期受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツを安易に使用せず、トイレ誘導し排尿・排泄を促している。同時に排泄記録表に記録することで排泄パターンを把握するよう努めている。</p>	<p>排泄記録表により個々の排泄パターンをつかみ、意思表示のない場合のトイレ誘導に役立て、日中は特にオムツに頼らない工夫をしている。従来3時間おきの夜間の見守りを2時間おきに短縮することにより、夜間時間帯での排泄のトラブルを減少させるなど適切な支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>レクでの体操や、食事・水分を十分摂り、基本的な事をしっかり行い、便秘にならない様に心掛けている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最近は午前中の中の入浴で、週二回となっているが、本人の希望によっては入浴日以外に入浴したり、日にちを変更するなど、出来る範囲で希望に沿うようにしている。</p>	<p>ゆとりを持って入浴介助し、ゆっくりと入浴を楽しんでもらうため、以前は午後の入浴時間を午前中に変更している。また本人の体調や希望により入浴日を変更するなど柔軟な対応がなされている。入浴に消極的な利用者には、バスタオルのオンボリで清拭を促す等、工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日中の活動量を増やし、夜間はしっかり眠って頂くよう努めている。また食後は横になり休息を取って頂いたり、寝る前にホットミルクを飲んで頂いたりしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の処方用紙をカルテに保管し、用法、用量について皆が把握できるように努めている。また、変更、追加があった場合は、口頭及び申し送りノート等にも記載し、職員への周知徹底に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>レクや毎月の行事などに、喜びや楽しみを持って頂けるように支援している。また、食事の準備や片づけなども、やりがいや生きがいを感じて頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者と一緒に近くのスーパーには度々出掛けている。遠方にも食事やドライブ、紅葉、花見等様々な所に出掛けている。また20に記載したように、家族とともに自宅で過ごせるような支援もしている。</p>	<p>天気の良い日は、日常的に近隣に買い物や散歩に出かけている。また時節に合わせてドライブを兼ねて紅葉狩りや花見に行ったり、外食にも出かけている。事業所開設以来の懸案であった、外泊一泊旅行も全員参加で実現する等、積極的な支援に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>認知症軽度の方でご家族の了解の元、一人の方はご自分でお金を管理されている。その他の方は施設で管理させて頂くが、買い物の際は一緒に支払いをし、お金の流れを説明している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	施設の電話を使用し、いつでも連絡をとれるように支援している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	木の温もりを感じて頂けるような住居、家具を提供し、随所にソファや談話スペースを設置することで、くつろぎの空間を用意している。また、窓や天窓から自然光を取り入れ、明るく、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。一昨年8月から柴犬を飼い、皆様の癒しになっている。	建物の中央には中庭が設けられ、数か所の天窓からは明かりが差し込み、開放感のある ゆったりとした共用空間となっている。食卓テーブルの他にも、随所に椅子や応接セットが配置されており、家族の面会時にも周囲に気兼ねなくくつろげるスペースが確保され、整理整頓されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	仲の良い利用者同士の席を隣同士にしたり、ソファを数か所に設置しているので数人と座ったり、別の場所に一人で座ったり出来る様に、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	クローゼット、洗面台は備付だが、ベッド、タンス、テレビ等は使い慣れたものを持参して頂き、本人の好みや自宅の環境に近いものになるようにしている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、洗面台も設備されている。ベッドでの生活を希望しない人への配慮もあり、原則に従ってベッドも持ち込みとしているがリース希望があれば事業所で斡旋している。タンスやテレビ、その他小物類は使い慣れたものを持ち込んでもらっている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	ケアの目標として、自立支援が実践できるように声掛け、介助を行なっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもやい志和

作成日 平成27年4月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を確認する機会がないので、全員が認識、理解しているのかわからない。	理念の共有。	毎月一回の全体会議にて理念の確認や実践が出来ているか、皆で振り返りを行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。